

本時のねらい

・主人公メロスの描かれ方に迫る。「メロスは、友達思いで、約束を守るいい人。」「勇者」というお決まりの人物像ではなく、メロスの言動を詳しく検証し、その人物像を多角的に、また批判的にも捉え、共有する。また、意見や考えを書くために、教科書本文をしっかりと読み込ませる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・意見の根拠を文章から読み取り、まとめることと共有を行うことができる。
- ・タブレットでの意見共有は、なかなか自分の意見を積極的に発表できない生徒の意見を取り上げたり自分とは違う意見に気づかせたりするなど、活動を活性化させ、読みを深めさせることができる。
- ・自分の意見の変容を視覚的に確認することができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ロイロノート
- ・大型テレビ
- ・タブレット

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時ではロイロノートのシンキングツールの共同編集を使ってメロスの性格、人柄を班ごとに分析した。それを使用して各自でもう一度振り返る。 ・シンキングツールから、自分の考えを簡単に書いて送る。 ・めあての提示 「メロスの人物像を言動（根拠）から捉えよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に音読CDを聞いたときに、タブレットを使って、メロスはどんな人だと思ふかをロイロノートで提出させている。 ・メロスの人物像をプラスに捉えるかマイナスに捉えたかについて、自分の考えをカードに記入し、共有する。
展開 32分	<ul style="list-style-type: none"> ・場面を4つに分け、その場面ごとのメロスの言動から、どのような性格や人柄かを文章から捉える。 ・具体的な性格の描写などが教科書に書かれていないことについても、自分で感じたことをその根拠も含めて、ロイロノートのカードで提出する。時間は1場面につき6～7分程度とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言動がマイナスだと感じる部分は赤のカード(字は白抜き)で、プラスだと感じる場所は白のカードで提出させる。 ・自分で文章から見つけさせるために、前半はあえてテレビ画面で全体の提出状況は映さないように工夫をする。(4場面の提出箱をそれぞれ用意する。)
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・提出されたカードを提示し、いくつかの意見を共有する。 ・初読の感想と変化している点、場面によってマイナスと捉える生徒が多いものについては、なぜ印象が変わったのかを共有する。 ・ロイロノートのカードを使って、振り返りを行う。自分の考えが変わった生徒は、どこがどう変わったのか、変わっていない生徒は、さらにどう感じたのかを提出後、意見を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書で確認しながら、画面を確認する。 ・自分の考えの変容を、初読で出させたものを提示し、比較する。 ・メロスのイメージの変化の様子を確認する。 ・授業の感想をそれぞれ書かせて、提出させる。 ・提出箱が多くなるので、正しく提出できるように指示をする。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：皆の初読の感想を見て、自分の考えを書いている様子。



写真2：自分の考えをカードに記入して提出箱に提出する様子。



写真3：今日の振り返り。メロスに対する印象の変化について自分の考えを入力する様子。

児童生徒の反応や変容

生徒がメロスについて多角的に捉えられるようになった。初読のときに「いい印象」しか書かなかった多くの生徒が、マイナス面や疑問点に気づき、多角的、批判的にも読むことができ、それも正解だと気づいていた。教科書の文章をしっかりと読むことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

「アウトプットするために本を読む」というインプット作業を行うことも今回の目的であったが、その点はうまく作用した。また、ICTの活用は書くことが苦手な生徒にとっても、取り組みやすく、教員側も生徒の活動状況の把握が簡単にできる。他の生徒の意見や考えを共有することで、書くことの方向性に気づきやすく生徒全体がさらに読みを深めることができた。